

投句者各位

謹啓 入梅の季節となりました。「ご尊台にはますます「清栄のこととお慶び申し上げます。各位には、毎年「鶴彬川柳大賞」に投句いただきましてありがとうございます。」

本年も、自由と反戦をつらぬいた鶴彬の魂「現代を鋭く風刺した、新しい感覚の川柳」を募集しますので、日頃の思いを吐いてください。

謹白

今年には鶴彬生誕百年を迎えます。

鶴彬(本名 喜多一二)明治四十二年一月一日、石川県高松町(現在はかほく市)に生れる。十五歳のころから川柳を作りはじめ。

昭和初期、日本が中国への侵略戦争に突入していく暗黒の時代に、「川柳」の革新と芸術的向上を目指し、その「川柳」を武器に、反戦・反権力を貫いた。軍隊内での反戦活動で逮捕され服役した二年間除き、1937年(昭和十二年)12月、治安維持法で逮捕され、留置場で赤痢にかかり、翌年9月14日、29歳で亡くなるまでの短い間に1044句の川柳、94の評論、18編の自由詩などを残した。

\*鶴彬の川柳は、当初の若い時の作品を除けば、従来の一般的な川柳と全く違います。鶴彬の目線の先にある対象は、彼が生きた時代の時事問題や世相です。鶴彬の川柳は、時事、世相の深層に潜むものを題材にし、彼固有の感性、洞察力から作られた作品が大半です。

鶴彬の痛烈な批判精神、日常生活にひそむ社会の矛盾・不合理を見出す鶴彬特有の嗅覚、革新川柳への並々ならぬ気概と執念、常人を越える不屈の反骨精神と勇氣。

これらを生み出した源が鶴彬の川柳。その一字一字に込められた「憤怒」……

【投句に専用紙】

※文字は楷書で鮮明にお書きください。

※ご記入いただいた個人情報、入選作品の作成と配布に使用し、

※姓・雅号にはふりがなを振ってください。

また、「鶴彬」川柳の普及活動に使用させていただきます。

都道府県名	
住所	〒 ふりがな
雅号または本名	
男・女	
電話番号	
No.	

投句料のお支払い方法に  
○印をつけてください。

•郵便小為替

【作品内容】

◆『自由吟』現代を鋭く風刺した新しい感覚の川柳。

②	①
No.	